確認試験 本品 1 mL を過マンガン酸カリウム試液（1 → 20）5 mL に加え、希硫酸 2 mL を加えて 2 分間振り混ぜ、更にクロロホルム 20 mL を加えて振り混ぜた後、クロロホルム層をとり、これを水浴上で蒸発するとき、残留物はベンゾアールデヒドのにおいを発する。この残留物を無アールデヒドエタノール 5 mL に溶かし、2,4-ジピントフェノールヒドラジン試液 1 mL を加えるとき、だいだい色の沈殿を生じる。
屈折率 nD25: 1.538 ～ 1.541
比重 d25: 1.043 ～ 1.053
純度試験
（1）溶媒 本品 1.0 mL を水 40 mL に溶かすとき、液は無色透明である。
（2）酸 本品 10 mL に中和エタノール 10 mL、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 0.20 mL 及びフェノールフタライン試液 2 滴ずつ加えるとき、液の色は赤色である。
（3）ベンゾアールデヒド 本品 1.0 mL に水を加えて 100 mL とし、その 1.0 mL をエスペンスマー内の試験管に水を加えて 25 mL とし、2,4-ジピントフェノールヒドラジン試液 1 mL を加えて混ぜ、5 分間放置するとき、渦り及び浮遊物を認めない。
（4）塩素化合物 火炎反応試験（2）を行うとき、錫色を呈しない。ただしこれ 2 滴を用いる。
蒸留試験 202.5～206.5℃、96.0 vol% 以上。定義法 本品約 0.5 g を精密に量り、ピリジン/無水酢酸混液（17:3）10 mL を正確に加え、蒸溜冷却器を付け、水浴上で 30 分間加熱する。冷後、水 25 mL を加え、過量の酸を 1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する（指示薬：フェノールフタライン試液 2 滴）。同様の方法で空試験を行う。
1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 108.14 mg C6H12O6
貯法 保存容器 遮光して保存する。
容器 耐熱容器
ベントナイト Bentonite
本品は天然に産するコロイド性含水ケイ酸アルミナミウムである。
形状 本品は白色～淡黄色の微細な粉末で、においはなく、味はわずかに土香である。
本品は水、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。
本品は水に入ると膨潤する。
確認試験
（1）本品 0.5 g に薄めた硫酸（1 → 3）3 mL を加え、白煙が発生するまで加熱し、冷却し、水 20 mL を加えてろ過し、ろ液を 5 mL にアノモニア試液 3 mL を加えるとき、白色ゲル状の沈殿を生じ。これにアリジビレンド S 試液 5 滴を加えるとき、赤色に変わる。
（2）（1）の残留物を水で洗い、メチレンブルー溶液（1 → 10000）2 mL を加え、次に水で洗うとき、残留物は青色を呈する。
pH 本品 1.0 g に水 50 mL を加え、振り混ぜて懸濁した液の pH は 9.0 ～ 10.5 である。
純度試験
（1）重金属 本品 1.5 g に水 80 mL 及び塩酸 5 mL を加え、20 分間よく振り混ぜながら微熱に煮沸し、冷後、遠心分離し、上澄みをとり、沈殿を水 10 mL ずつで 2 回洗い、毎回遠心分離し、上澄み及び洗液を合わせ、アンモニア水（28）を滴加し、沈殿がわずかに生じたとき、強く振り動かしながら塩酸液を滴加して再び溶かす。この液に塩酸ヒドロキシンアンモニウム 0.45 g を加えて加熱し、冷後、酸性ナトリウム三水和物 0.45 g、希硫酸 6 mL 及び水を加えて 150 mL とする。この液 50 mL をとり、これを検液とし、試験を行う。比較液は鉄標準液 2.5 mL に塩酸ヒドロキシンアンモニウム 0.15 g、酸性ナトリウム三水和物 0.15 g、希硫酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする（50 ppm 以下）。なお、ヒ素 本品 1.0 g に塩酸 5 mL を加え、よく振り混ぜながら沸騰するまで微熱に加熱し、温度が冷却した後、遠心分離する。残留物に塩酸 5 mL を加えてよく振り混ぜ、遠心分離する。更に水 10 mL を加え、同様に操作し、全抽出液を合わせ、蒸発させて加熱濃縮し 5 mL とする。これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う。乾燥減量 5.0 ～ 10.0 %（2 g、105℃ 2 時間）。
ゲル形成性 本品 6.0 g を酸化マグネシウム 0.30 g と混ぜ、水 200 mL を入れた 500 mL の共栓試験管に数回に分けて加え、1 時間振り動かし、その後時計を 100 mL を 100 mL のメスリンシューパーに移し、24 時間放置するとき、上層に分離する澄明液は 2 mL 以下である。
膨潤力 本品 2.0 g をとり、水 100 mL を入れた 100 mL のメスリンシューパーに 10 回に分割して加える。ただし、先に加えた試料がほとんど沈着した後、次の試料を加える。これを 24 時間放置するとき、器底の状況の容積は 20 mL の目標である。
貯法 容器 密閉容器
ボウイ サイエントリム

SINOMENI CAULIS ET RHIZOMA

防己

本品はオオツラブラウン Sinomenium acutum Rehder et Wilson（Menispermae）の根及び根茎である。
形状 本品は円形又は円形の切片で、厚さ 0.2 ～ 0.4 cm、径 1 ～ 4.5 cm である。切片の皮部は淡褐色～暗褐色を呈し、木部は灰褐色の道管部と暗褐色の放射組織が交互に放射状に配列する。側面は暗褐色で、縁は毛状やうろ状突起がある。